

## いじめ

### 小 六

ぼくは、いじめを絶対にしてはいけないと思います。その理由は、友達の心をこわしてしまふからです。心がこわれたら、一生治らないからです。体の傷は治るけれど、心の傷は、治ることがありません。だからぼくは、いじめに反対だし、絶対にいじめてはいけないと思っています。

いじめには、いろいろなものがあります。たとえば、暴力をふるういじめ、無視するいじめ、物をかくしたり、よごしたりするいじめ、インターネットによるいじめ。

ぼくが、オンラインゲームをしたと

き、相手チームにゴールを決めたら、コメントで「死ね死ね死ね、消えろ消えろ消えろ」と言われて、心がさされたようでした。今でも忘れられない、とてもつらい出来事でした。

どのようないじめでも、心や体が傷つき、その先も一生苦しむことになります。友達に無視されたら、暴力をふるわれたら、考えただけで苦しい悲しいです。

ぼくが小さかったころ、友達にいじわるをされたことがあります。ぼくの上に乗って、ぼくのくつ下をとり、そのくつ下を投げて返してくれないといったいじめです。ぼくはそのときに初めて、「いじめをされること」を知りました。もしかしたらその友達には、ふざけているだけでいじめとは思

っていなかっただかもしれないです。でも、された方がいじめだと思っただら、それはいじめなのです。

ぼくは、その出来事があってから、自分がされたいやだと思ふことや悲しいと思ふことは、友達には絶対にしないと思ふに決めました。

人は人の数だけ考え方や感じ方があります。だから自分の考えや気持ちだけではなくて他の人のことをよく考えて行動したり発言したりしなくてはいけないと思ふは強く思うとともに、そのことをみんなに伝えたいです。

悪いことをすればいじめられちがう形で自分に返ってくる。小さいころお母さんによく言われました。いじめはされる方の心も痛いけれど、する方もいつかきつと心がとてつもなく痛むものだ

と教わりました。ぼくは、大切な家族や友達、身近な人たち、みんなに笑っていてほしいと思ふます。なみだを流している姿や、悲しい姿を見るのはつらいです。だから、決していじめをしてはいけないと思ふます。

もし、だれかにいじめられてしまつたら、ぼくはしてはいけないことを教えられたと前向きに考えて感謝の気持ちをもつことができる、そんな優しく強い心をもつた人になりたいです。